



シェイクハンド

第36号
H24.9

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

会長代行の挨拶

静岡県訪問看護ステーション協議会 会長代行 上野 桂子

さる6月の総会において会長代行に就任した上野でございます。佐藤前会長には会長就任以来会則等の見直しや事務局体制等々訪問看護ステーション協議会に多大なご尽力いただきました。が、残念なことですが体調不良により3月末で会長を退任することとなりました。残任期間をどうするかを役員会で検討し副会長が会長代行という形を取ることとなり総会で承認されたという経緯です。未熟者ですがよろしくお願い致します。

訪問看護制度が創設され今年でちょうど20年の節目の年です。4月に行われた介護・診療報酬改定はそれにふさわしい中身だと評価しております。これもひとえに訪問看護事業への評価と期待の表れであると思います。また、同時に新設された「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」や、「複合型サービス」は、医療的ケアと日常生活支援のプロである訪問看護師だからこそ発想豊かに取り組める事業ではないでしょうか。

我々訪問看護師は、従来の利用者宅への訪問だけでなく、地域全体を視野に入れて活動していくことを今、求められてきているのだと思います。また、皆様ご承知のように4月から、「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正により一定の条件下での「介護職員等」による「医行為（喀痰吸引・経管栄養）」が業務としての実施が可能になりました。が、訪問看護事業所が関わる時には「登録特定行為事業者



（例、訪問介護事業所）」・「認定特定行為業務従事者（例、ホームヘルパー）」との連携が課題となります。誰が、何を、どのようにすることが利用者の生命の安全が守られるかを第一に考え、よりよい連携を取っていくことが望まれます。

固定概念から脱皮し、視点を変えることで訪問看護ステーションの経営基盤の安定化のみならず地域包括ケアに積極的に関わり、住民が最期まで安心して地域で生活ができることを支援していくことができるのだと思います。

とはいえ「訪問看護ステーション協議会」はまだまだ未熟な任意団体です。県看護協会をはじめ県医師会・行政の皆様のご支援・ご助言をいただきながら着実に歩んでいきたいと思っています。役員をはじめ、会員の皆様のご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。



平成24年度 通常総会報告

平成24年度通常総会は、6月16日静岡県総合社会福祉会館において、静岡県健康福祉部介護指導課課長岩田信夫様、静岡県健康福祉部地域医療課課長壁下敏弘様を来賓にお招きし、開催されました。

会員数116事業所数のうち、出席は69事業所、委任状は30事業所で、会員の過半数の出席をもって総会は成立しました。総会では、以下の議案の審議が行われ、全て承認されました。

1. 平成23年度事業報告・決算報告
2. 平成24年度事業計画・予算
3. 平成24年度静岡県訪問看護ステーション協議会役員

【平成24年度 静岡県訪問看護ステーション協議会役員紹介】

副会長 (会長代行)	上野 桂子	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 理事/顧問
副会長	篠原 彰	社団法人 静岡県医師会 副会長
副会長	大塚みち子	社団法人 静岡県看護協会 常務理事
理事	櫻井 悦子	訪問看護ステーション千本 所長
理事	多田みゆき	訪問看護ステーションひより 所長
理事	石井 由美	訪問看護ステーションなかいず 所長
理事	小野 英代	長岡訪問看護ステーション 所長
理事	石川 英也	社団法人 焼津市医師会 理事
理事	高井由美子	コミュニティーセンターももの家 統括責任者
理事	竹澤まゆ美	訪問看護ステーション萩 所長
理事	小長谷葉子	訪問看護ステーション茶町 所長
理事	原木志げり	訪問看護ステーションふじえだ 管理者
理事	垣野内恵子	訪問看護ステーション住吉第二 所長
理事	大澤 三枝	袋井市訪問看護ステーション 管理者（9月30日まで）
理事	赤堀奈緒子	訪問看護ステーション掛川 所長代理（10月1日～）
理事	鈴木恵美子	訪問看護ステーション大平台 所長
理事	尾崎 和子	湖西市訪問看護ステーション 管理者
監事	池田 純介	社団法人 三島市医師会 会長
監事	三浦さえ子	訪問看護ステーション清水 所長
東部支部長	櫻井 悦子	
中部支部長	高井由美子	
西部支部長	垣野内恵子	
広報委員	◎石井 由美、竹澤まゆ美、大澤 三枝（～9/30）、赤堀奈緒子（10/1～）	
研修委員	◎多田みゆき、小長谷葉子、尾崎 和子	
総務委員	◎鈴木恵美子、小野 英代、原木志げり	
企画委員	◎多田みゆき、櫻井 悦子、高井由美子 小長谷葉子、垣野内恵子、鈴木恵美子	
事務局	鈴木 恵子、白鳥美紀子、徳本 みき	



訪問看護ステーション相互研修の報告

訪問看護ステーションみなみ 今村 真理子

去る2月に在宅ターミナルケアのアドバイザー研修の後半がありました。秋山正子先生をアドバイザーとして1回目のアドバイスを活かしさらに深めていくということが目的です。

2回目の今回は、2箇所のステーションが合同で行いました。これが相互研修ということになるようです。裾野訪問看護ステーションと訪問看護ステーションみなみのスタッフが全員参加しての研修でした。

各ステーションからそれぞれ事例を出し合い、利用者に対して訪問看護がどのように関わったか、その時の課題は何か、そして今回はどういったアドバイスを受けたいか、または、前回のアドバイスを深めることができたかなど、質疑応答を交えすすめていきました。研修に対する感想は

- ①地域性を感じとれたこと（おたがいの訪問エリアが近い）
- ②同じようなことを感じ、悩んでいるのだという親近感、安心感を持った
- ③事例からステーションが大切にしていることが伝わってきてそのことに共感できた
- ④制度など知らないことも多い

などです。研修はこれだけに留まらず、秋山先生の参加によって訪問看護の役割は何かと言う原点についても再認識する機会になり、「（訪問看護は）こうしなければいけない」というある種決まった答えを求めることよりも、「その人の生き方を理解しつつ（訪問看護師として）その人に何が手助けできるか、100人いれば100の方策あり」など、気付き・学びの多い一歩すすんだ研修になりました。

全体を通して一番の成果と感じたことは、今回が単独の研修ではなく相互研修という形だったからこそ実感できた良さがあった点です。

それは、なによりお互いを知るよい機会になったというメリットです。

お互いのステーションを知ることで、理解し認め合うことができました。加えて、認め合うためには、話を良く聞くことが大切ですし、話す方も一方的な伝え方ではなく、相手が理解できるような話し方で進めることを意識した研修にもなりました。

訪問看護も最近は2箇所のステーションでかかわることも多くなっています。顔の見える関係作りをしているとそんなときもスムーズな連携ができると思います。

2箇所でやってよかったと実感できたスタッフは元気が湧き出た研修にもなったようです。

JA静岡厚生連 訪問看護ステーション茶町 小長谷 葉子

平成23年10月20日に、静岡県立総合病院の緩和ケア認定看護師野崎順子氏と地域医療ネットワークセンター副看護師長の永嶋智香氏に講師としてお越し頂き、近隣の2ヶ所の訪問看護ステーションのスタッフの方々にも参加して頂き相互研修を開催しました。

普段ステーション内で疑問や不安に思っていた事、総合病院へ感じている事、ターミナル期にある利用者さんへの疼痛管理やケアの方法、看護記録の内容等を中心に活発に意見交換が進みました。その中で、「病棟看護師は退院の短縮化に伴い業務が煩雑化しており、退院調整に追われている。病棟看護師は在宅を、訪問看護師は病棟の事を知らない。お互いが根気良く状況を伝えていく事が大事。」と伺い、連携のタイミングや情報共有の方法、内容等を明確化していく事が今後取り組むべき課題だと実感できました。

また、最期は在宅でとお考えのご家族に対して、医師と連携の上看取りのパンフレットを用いて、進行に伴い出現するであろう症状、苦痛症状の緩和方法を説明し、不安の軽減を図っていると伺い、当ステーションでも早速取り組む方向となりました。

2回目の平成23年12月15日には野崎氏より、「コミュニケーションとは」をテーマに、聴き上手の面談技法や面接について講義をして頂き、私達が苦手意識を持っているノンバーバルコミュニケーションの重要性を再認識でき、また、面接時の適切な距離や環境の提供により、相談者が自然に気持ちを表出できると学びました。面談は、「相談者が気持ちを整理する大切な時間であり、アドバイスを求めているわけではなく話を聞いて共感して欲しいと思っている。」と伺い、自分達の看護を振り返る良い機会になりました。

また、当ステーションの事例を展開し問題点を抽出しました。そこで、当ステーションのスタッフだけでは見出せなかった解決策の提案や助言を頂き、その後の実践に活かし、改善に努める事ができました。

今まで、ステーション内で疑問点が挙がったその時に、その場で相談できる窓口が限られていました。しかし、この相互研修をきっかけに近隣のステーションの方と横の繋がりを持てた事で、早々に相談にのって頂き、問題解決ができるようになった事は大きな収穫でした。

なお、静岡県立総合病院の総合相談センターでは、野崎氏が静岡県立総合病院の患者さんのみならず、他院の患者さんや医療従事者からの相談も受け付けてくださっているそうです。



ステーション紹介

東部 訪問看護ステーション うしぶせ

豊永 美幸



い（不適切表現かもしれませんが）・御酒好き・・・の利用者方、ミカン農家で季節によって介入間隔が変わる利用者など多様な利用者・御家族と一緒に、わいわいにぎやかに毎日を送っています。

また、沼津医師会在宅医療支援ネットが稼働し、ネットワークの1グループ（6クリニック1病院）の先生方と共に日夜頑張っています。現在の契約者の7割強が在宅支援ネットの先生方の患者さんです。もちろんネットワークを組んで下さる先生方は、在宅にご理解が高く協力的です。時には持ちつ持たれつの時もありますが、このように職場環境は整えられつつあるとは幸せなことだと思っております。

皆様こんにちは。「訪問看護ステーション うしぶせ」です。変わった名称ですが、これは、沼津市の千本松原から南下、御用邸手前にある牛臥山からもらったもので、沼津市南部（井田・戸田を除く）を中心に訪問をしています。開設して干支を一回りし終え、私で二代目の管理者となりました。

設置母体は沼津リハビリテーション病院で、神経難病および回復期を扱っております。

そのこともあり、当事業所はOT 2名（常勤）を含め総勢8名（内、事務1名）で、訪問看護・訪問リハビリを提供しています。入院時の集中リハを経て在宅での生活をサポートする、「一貫したサービスの提供」が理念です。もちろん、急性期病院等からの依頼も多く、幸せなことに多忙な日々を送らせて頂いております。

沼津市沿岸の風光明媚な場所柄、「この人は海が好きだから、家で最期を過ごさせたい」という理由で退院を決めてこられる御家族や、元漁師や魚の加工を職業としてきて、待ったなし・頑固・べらんめ

反面、どの事業所もそうだと思いますが職員確保問題と、当事業所は沿岸地帯の訪問が多いので、災害対策の具体化（行動化）といった頭痛の種も抱えている今日この頃です。ただ、東部は、訪問看護ステーション間の交流があるので、諸先輩方の助言や協力に支えられていることを励みに、これからも努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次は「訪問看護ステーションゆかわ」さんです。



うしぶせのマスコット「亀太郎」。現在放浪中。
見かけた方はご一報を。

中部 焼津訪問看護ステーション

幾嶋 弘子

皆様、こんにちは「焼津訪問看護ステーション」です。

私たちの事業所は平成9年、焼津市の南部（田尻）

に位置する老人保健施設「ケアセンターゆうゆう」に併設された訪問看護ステーションです。周囲は自然豊かな田畑に囲まれ、駿河湾からは2.1kmと海に



近く、H23年3月11日の災害は他人事ではありませんでした。災害時はどう対応したら良いか、最近の豪雨による停電やトラブルを含め訪問時に家族と再確認をしています。災害や緊急等の連絡は一斉メールをスタッフに配信し対応を指示、その為に普段よりメールに慣れるよう互いに連絡を取り合い、常に災害対策を念頭において訪問に入るようにしています。

現在、常勤2名、非常勤4名、理学療法士1名、事務1名で活動。今年の4月、新人PTが入りぐっと若返りましたが、今の課題は後継者をどの様に育成していくか悩みです。

医療保険の利用割合は22% 介護保険は78%で医療保険の利用者様が増えています。利用者様は焼津市の全域と藤枝市の一部で、3歳児から102歳まで幅広くご利用頂いています。特徴として老健施設内に通所リハビリやショートステイ・居宅と訪問介護が併設、同グループには関連病院や特養等があり、緊急時や困った時のサービスの見直し、リハビリ内容の検討、他職種との連携がとてもスムーズで対応が速い事です。

焼津は漁業に関連した職種が多い地域で、家の賄いや稼業をしながら、ご自宅で介護に携わっている方も多く元気な町です。常に心掛けている事は利用者様やご家族の意向に添って“丁寧にやさしく心をこめて”訪問 これからも地域に密着した訪問看護を目指していきます。

次は「訪問看護ステーションあおば」さんです。



西部 訪問看護ステーションはまおか

松下 知子

「こんにちは 訪問看護ステーションはまおか」です。

浜岡砂丘のすぐそばに位置し、「ふれ愛 ささえ愛」を目指す、市立御前崎総合病院に併設されたステーションです。

平成8年市立御前崎病院の訪問看護室がスタートし、平成13年5月から現在の訪問看護ステーションになりました。

スタッフは常勤3名・非常勤2名で、市立御前崎総合病院の看護部に所属しています。院内外の研修にも積極的に参加し、毎年個人の目標を決め、自己のスキルアップを図っています。

昨年は、院内で訪問看護をアピールする勉強会の開催や、退院後カンファレンスを試みたり、退院調整や退院指導にも積極的に関わってきました。

東海アクシス看護専門学校の実習を受け入れています。実習指導は大変ですが、学生から若いパワーを貰っています。利用者様・御家族様も学生が来るのを楽しみにしています。

今年は、接遇や倫理的視点を持ち利用者に満足していただける在宅支援ができるように日々のカンファレンスや事例検討を実施しています。

最後に、いつでも笑顔と感謝の気持ちを大切に、地域に根ざしたステーションになるために、スタッフ一同日々努力していきたいと思っています。

次は「トータルケアひかり」さんです。





退院支援の現状と訪問看護ステーションとの連携を目指して

順天堂大学医学部附属静岡病院

医療サービス支援センター 山本多恵子

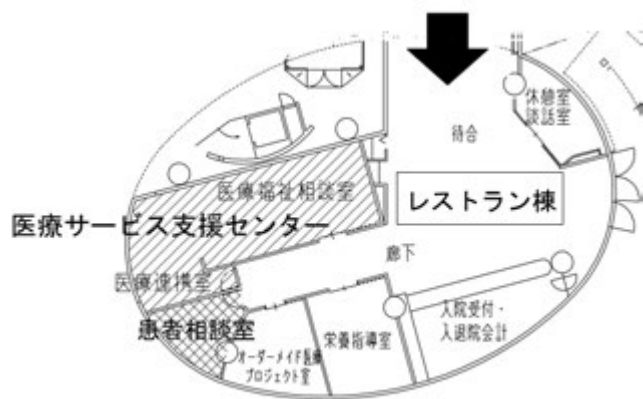
1. 医療サービス支援センター開設

順天堂大学医学部附属静岡病院は、許可病床数552床、診療科30科を有する一般急性期型病院です。なかには救急救命センター55床、新生児センター30床、総合周産期母子医療センターなどがあり、ドクターヘリの基地病院にもなっています。

本年7月より医療連携室、医療福祉相談室に患者相談室を新たに加え、医療サービス支援センターを開設することになりました。

医療サービス支援センターでは、①地域の医療機関からの紹介案内、検査予約の受付、②転院先の選定と調整、経済的問題など心理的・社会的な問題の相談、退院後も継続的な医療処置を必要とする患者の在宅療養サポート、③院内・院外を問わず病気や治療についての不安や悩み、在宅介護についての相談など、安心と信頼の医療を提供するための支援業務を行っていきます。

これまでは、患者相談室が分かりにくくご迷惑をおかけしましたが、医療サービス支援センターとしてレストラン棟1階入院受付隣（図1）に移動いたしましたので、是非一度お立ち寄りください。



— 図1 —

2. 課題探しの初年度

私は、2009年に当院に赴任し、退院支援専従看護師として医療サービス支援センターで勤務しています。現在では多くの病院が退院調整に取り組んでい

ますが、先進医療、救急医療を中心とする当院では「退院支援」はあまり聞き慣れない言葉でした。

最初は、MSWと共に担当患者を観察しながら、退院支援の依頼方法やMSWの業務と患者からの相談への対応、診療科の特徴と病棟看護師の業務内容などを把握しました。その後、総合案内で受診相談を受けながら通院患者の要望を聞いたり、外来の診療体制、救急患者の受診対応などを経験しました。病棟の診療科回診にも参加することにより、当院の退院支援の現状と課題が次第に浮き彫りになりました。それを大別すると以下になります。

1) 患者・家族からの不満

- ①患者・家族に病状説明が十分理解されていないままに、突然退院と言われ、患者は医療不信を持つに至る。
- ②医師より「在宅は無理」と言われ、選択肢の提示がないまま転院先を提示される。
- ③病棟からの退院支援依頼の時期が遅いため、適切な退院支援ができない。

2) 病院側の課題

- ①MSWと退院支援看護師の役割が明確になっていない。
- ②これまでの急性期病院にありがちな医師主導の医療計画になっている。
- ③病棟看護師は、退院支援の必要性は認識しながらも退院支援計画ができない。

3. 退院支援システムの立ち上げと病棟看護師との協力体制の確立

当院の退院支援は、当初よりMSWの業務に位置付けられていた経緯があったので、業務内容を検討することにより、MSWと退院支援看護師の役割を明確にしました。

退院支援看護師の役割は、医師や病棟看護師から闘病中の患者の情報を早期に医療サービス支援センターに提供してもらうことであり、MSWと協力しながら支援が必要な患者の病状により適切な退院先を判断して地域に繋いでいくことです。そのために



は、退院支援の業務の流れをわかりやすく表示する必要があり、退院支援システムフローチャート（図 2）を作成しました。

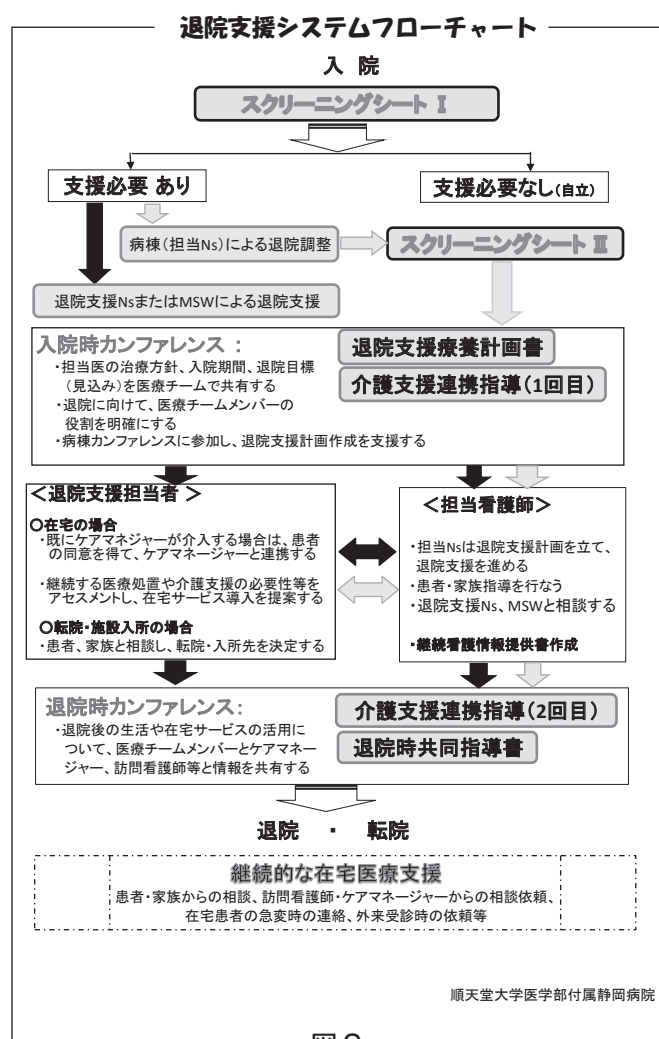
4. 退院支援の実際

病棟看護師の退院支援システムの理解と意識付けを深めるため、2010年よりラダー研修として、リーダークラスの看護師を対象に希望者を募り、年4回の退院支援研修（トワイライト研修）を実施しています。また、担当医師を始めチーム医療で患者に関わる、薬剤師、理学療法士、作業療法士などの専門職種には、ケースを通じて退院支援の流れと退院支援看護師の役割をその都度説明しました。

退院支援業務を開始して今年で4年目になりますが、患者・家族や医療職への理解が浸透し、在宅で医療処置を継続されるケースが年々増えて来ました。なかでも、埋め込み型ポートによる在宅中心静脈栄養法（HPN）が最も多く、退院後の外来では、医師と外来看護師と共に医療チームで患者のQOLを考慮した在宅療養の継続を支援しています。

5. 病院と訪問看護との連携強化を目指して

退院時カンファレンスでは訪問看護師から「医師からの病気の説明を患者、家族はどう受け止めているか」とよく聞かれることがあります。病院から送る看護情報提供書には曖昧な表現が多く、特にがん患者が自分の病気を理解しているかいないかは訪問看護師にとって重要な情報ですが、病院で勤務する看護師にとっては在宅看護がなかなかイメージできません。こんなジレンマを何度か経験したので、今年からトワイライト研修に訪問看護実習を計画しま



— 図 2 —

した。在宅で何かを感じてくれることを期待しています。

これからは、病院から在宅療養に移行する患者さんが増えることが予想されます。病院からも地域に向けた情報を積極的に発信しますので、互いに連携を強化していきましょう。

訪問看護師就業セミナーの開催について

本年も訪問看護師確保に向けて、訪問看護師就業セミナーを開催します。

看護職有資格者でお仕事をされていない方をご存じでしたら、是非このセミナーを紹介して下さい。よろしくお願い致します。

詳細は、ホームページでご確認下さい。 <http://www.shizuoka-vnc.jp/>

地 区	日 程 (全 3 回)
東部地区	1 回目 9/25 (火)、2 回目 見学実習、3 回目 10/16 (火)
中部地区	1 回目 9/14 (金)、2 回目 見学実習、3 回目 9/28 (金)
	1 回目 10/6 (土)、2 回目 見学実習、3 回目 10/20 (土)
西部地区	1 回目 9/11 (火)、2 回目 見学実習、3 回目 10/9 (火)



全体研修会報告

西部支部 訪問看護ステーション住吉第二 垣野内 恵子

1. テーマ 「ITを利用した訪問看護の情報共有と地域連携」
(訪問看護ステーションの業務改善実践報告)
2. 講師 聖隷訪問看護ステーション千本 櫻井悦子 所長
3. 開催日時：平成24年6月16日(土)
16:00~17:30
4. 会場：静岡県総合福祉会館シズウエル
5. 参加者：88名

日本が超高齢化時代を迎えて、地域の高齢化がますます進んでいること、ガン末期や医療依存度の高い患者さんの在宅への移行などで、訪問看護ステーションへの役割は増えています。

一方、訪問看護の運営上の問題として櫻井さんは次の問題があると挙げています。

- ・制度の問題（疾患や症状により保険が違うなど複雑、利用者やケアマネなどが分かりにくい、保険によって同じ看護なのに料金が違う、医療保険は交通費などのオプションがある。）
- ・高い離職率、人材確保の困難さ（給与が病院勤務より低い）、教育体制が不十分・小規模事業所になればなるほど緊急電話当番担当日が増加・家庭生活の中に仕事が入り込む・バッドニュースを利用者、介護者から直接聞くプレッシャーとストレス・何時かかってくるかわからない電話へのプ

レッシャーとストレス

2011年度に、沼津市の沼津在宅医療支援ネットの中で、iPhone・iPadを利用した在宅医療支援ネットを構築する第1歩としての活動が始まり、その報告でした。

世の中のIT化が進む中、病院でも電子カルテとなっています。

訪問看護ステーションでも、パスワードを使って、連携する地域の医師と利用者様の情報を共有することができます。まだ、試用段階であることとレセプトと連動していないことで、日常の記録には活用していないとのことでしたが、主に緊急対応時の情報収集に使っているとのことでした。今まで、緊急対応のために携帯当番は、利用者情報の記録、利用者宅の地図等を持ち帰っていましたが、iPadを利用することで、それらの情報が検索できます。携帯当番の荷物が減り、すっきりしたとのことでした。セキュリティも保障されています。パスワードを使っていますので、担当の医師以外の医師が、利用者情報を見ることもできません。

便利なアプリもあり（点滴の落下速度の調整、地図検索、麻薬調整など）日常業務に活かしているとのことでした。

まだまだ、課題も残る訪問看護業界のIT化ですが、便利な機能を利用して、訪問看護の業務が整理されれば、働く職員も気持ちよく働くことができ、負担を少し減らすことができるかもしれませんね。

管理者研修のお知らせ

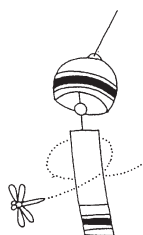
会場は東部地区ですが、県下全域の訪問看護ステーションの管理者を対象に、人材育成の為の研修会を開催します。多くの方の参加をお待ちしております。

日時 平成24年10月13日(土) 13:00~16:00、会場：沼津市民文化センター

テーマ「人材を育てるための管理者研修」、講師：萩原正子氏（オフィス萩原代表理事）、参加料：無料

編集後記

昼は仕事、夜はオリンピック観戦と忙しい毎日ご



苦労様でした。今年のオリンピックは若い人ががんばって銀・銅が多く、次回四年後に乞うご期待(∩∩) 残暑厳しい折、ご自愛下さい。

シェイクハンドNo.36

2012年9月発行

発行所 静岡県訪問看護ステーション協議会
静岡市葵区川辺町二丁目4番地の13
常葉サテライトビル3階
Tel 054-275-3339
Fax 054-275-3338
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 上野 桂子
編集者 石井 由美（訪問看護ステーションなかいず）東部
竹澤まゆ美（訪問看護ステーション 萩）中部
大澤 三枝（袋井市訪問看護ステーション）西部